

2012年度入学試験問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問3・問5は記述解答用紙に答えなさい。問2・問4、問6～問9はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

桓武平氏および清和源氏は武家の棟梁と呼ばれ、武家集団を統率した。

桓武平氏の一族は、東国に進出して地方豪族になる者が多かった。桓武天皇の皇子である葛原親王の孫である が平の姓を受け上総介となり、その子孫が関東各地に広がり、東国の武士団を形成していったのである。^①

清和源氏は、清和天皇の孫とされる経基王が源の姓を受け、武蔵介となったのに始まる。清和源氏は畿内に本拠地を構えつつ、中級貴族として活躍していった。源経基の子である源満仲は安和の変の際に陰謀事件に加わるなどして藤原氏との関係を深めていった。^②源満仲は藤原兼家に、満仲の子である源頼光・頼信兄弟は藤原道長に仕え、諸国の受領を歴任した。

1028(長元元)年に上総国で の乱が発生すると、源頼信は房総半島に広がったこの乱を平定した。これにより関東の平氏は衰退し、源氏は東国進出への足がかりを得ることとなった。1051(永承6)年に安倍頼時が反乱を起こした際には、源頼信の子である源頼義が、子の義家とともに東国の武士を率いてこれと戦った。頼義・義家父子は、安倍頼時が戦死した後も、その子である安倍貞任らの激しい抵抗を受けたため、出羽国の清原氏の助けを得てこの反乱を平定した。^③

安倍氏滅亡後、奥州で勢力をふるったのは清原氏であった。しかし、清原氏一族の中で紛争が発生したため、源義家は清原氏の一族であった清原(藤原)清衡を助けてこの紛争を制した。以後、奥州は藤原氏が三代にわたって支配し、北方との交易や金などの産出物による富を背景にして京の仏教文化の移入に努め、繁栄を誇った。^④

源氏は、安倍氏の反乱や清原氏一族の紛争を通じて東国武士団との主従関係を深め、東国における源氏の地盤を強固なものにするとともに、武家の棟梁としての地位を固めていった。しかしながら、白河上皇と鳥羽上皇は摂関家と結びつきの強い源氏の勢力をおさえるため、桓武平氏のうちで伊勢・伊賀を地盤とする伊勢平氏の中から平正盛を北面の武士にとりたてた。平正盛は、源義家の子である の乱を平定し、^⑤その子である平忠盛は瀬戸内海の子を討し、鳥羽上皇の信任を得ることになった。

平氏と源氏は、このように院や摂関家との結びつきを強めていったが、そのことに

よって、皇位継承をめぐる天皇家内部の対立と摂関家内部の権力争いや、院の近臣間の対立^⑦に巻き込まれることになった。平清盛は、これらの乱を勝ち抜き、後白河上皇の近臣として勢力を固めた。平氏の勢力は源氏を圧倒し、清盛の一族の子弟が高位高官を独占するほどになった。平氏の勢力拡大は、やがて後白河上皇や貴族の反感を買い、平氏政権の独占支配に対する不満の高まりから、各地で打倒平氏の軍事行動が起こった。この争乱^⑧は数年間にわたって続き、壇の浦の戦いにおける平氏滅亡により、収束をむかえた。

問1 文中の空欄 ～ に入るもっとも適切な人名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 桓武平氏が勢力を拡大した関東は良馬の確保が難しい地域であったため、武士団を形成するためには他国との交易で馬を入手する必要があった。
- b 下総国を本拠地とする平将門が起こした乱は、もともとは一族間の紛争に端を発するものであった。
- c 源頼朝の死後、執権として幕府の実権を握った北条氏は、桓武平氏の流れをくむ一族である。

問3 下線部②の安和の変は、村上天皇の死後、左大臣源高明が左遷された事件であるが、源高明は誰の擁立を企てたとして左遷されたのか。適切な人名を漢字で答えなさい。

問4 下線部③に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a これは朝廷の許可なしに行われた私戦とみなされたため、反乱を平定した源氏に対する恩賞は出されなかった。
- b 『陸奥話記』は、この経過を記した軍記物語である。
- c この反乱の平定後、陸奥国の備えを固めるため、源頼義は陸奥守に任じられた。

問5 下線部④の紛争を描いたもので、源義家が雁の列の乱れから敵の伏兵を知り、これを攻めている場面が有名な美術品を何というか。漢字で答えなさい。

問6 下線部⑤に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 院政期に、京では六勝寺と総称される大寺院が造営された。
- b 京の仏教文化は地方にも広がりを見せたが、寺院に所属しない聖や上人による布教活動に負うところが大きかった。
- c 藤原清衡が建立した中尊寺金色堂には、藤原三代の遺体が安置されている。

問7 下線部⑥に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 北面の武士とは、宮中の警備にあたる武士をいう。
- b 北面の武士とは、院の御所に置いた院の警備にあたる武士をいう。
- c 北面の武士は、後鳥羽上皇の時代に西面の武士に改組された。

問8 下線部⑦に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 保元の乱の発生は，院政を敷いていた崇徳上皇から後白河天皇が政権を奪おうとしたことに始まる。
- b 平治の乱で源氏を中央から一掃した平清盛は，武士としてはじめて太政大臣となった。
- c 保元・平治の乱により，貴族内部の争いも武家の棟梁の力なしには解決されないことが明らかとなった。

問9 下線部⑧に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a この争乱のさなか，源頼朝は鎌倉にとどまり，のちの鎌倉幕府の中央機関となる公文所と問注所を設置したが，侍所については，争乱終結後に設置した。
- b 平氏が西国に敗走すると，後白河上皇はこれを討つため源義経を惣追捕使に任命した。
- c 平清盛の死により指導者を失ったことのほか，養和の飢饉による経済的基盤への打撃が平氏の弱体化につながった。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

江戸時代には幕府が全国を直接統治していたわけではなく、大名にそれぞれの領内をおさめさせていた。しかしながら、他方で大名は幕府に一定の奉公が求められた。そのような奉公には軍事的負担ばかりでなく、 普請とよばれるような土木工事の負担などもあった。

大名は、失政あるいは不適切な行動などがあると幕府から処分をうけた。場合によっては領地を一部召しあげられたが、これは^① とよばれる。さらに重いと改易となった。

大名も家臣の一部に領地を与えていた。このように家臣に領地を与えおさめさせる制度は 制とよばれる。しかし、家臣の支配権はしだいに形骸化したといわれる。

諸藩の行政機構をみると、組織の在り方や名称などは幕府のそれと必ずしも同じではなかった。勘定奉行ではなく 奉行とよばれる役職をおき、年貢の徴収などの農民支配を担当させた藩は少なくなかった。

諸藩では幕府にくらべ財政が不安定であったということもあり、藩政の見直しをせまられるという事態が早くからみられた。土佐藩では江戸時代前期に儒学を学んだ野中兼山が積極的に新田開発や殖産興業につとめた。なお、大名のなかには木下順庵^②^③などの儒学者を侍講・顧問などとして積極的に用いる例がみられた。

藩政改革において成果をあげた大名は名君とよばれた。秋田藩の はそのひとりである。彼は職制を整備し、農業・林業・鉱業をさかんにした。また人材育成をめざして藩校を設立した。^④

佐賀藩では鍋島直正の主導のもと、本百姓体制の再建を目的に、地主の農地所有を規制し小作人を保護する 制を実施した。また、国産統制機関を新たに設けて陶磁器などの専売事業を強化した。さらに近代的技术の導入をはかった。^⑤

長州藩では毛利敬親の時代に下関に という役所を設置して保管業や金融業などで大きな利益をあげた。このほか、 藩でも伊達宗城の時代に改革が進められた。

問1 文中の空欄 ～ に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 徳川家康の子孫にあたる大名でも改易された例がある。
- b 改易処分をおこなった件数は，徳川家綱より徳川綱吉のほうが多かった。
- c いわゆる三方領地替えは川越藩に対する処罰として立案されたものである。

問3 下線部②に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 野中兼山が学んだ儒学は中国で南宋の時代に形成された学派に属する。
- b 野中兼山は儒学を谷時中に学んだ。
- c 野中兼山が学んだ学派からは大塩平八郎がでている。

問4 次のうち下線部③の木下順庵が仕えた藩を1つ選び，その記号をマークしなさい。

- a 加賀藩 b 会津藩 c 岡山藩 d 仙台藩

問5 次のうち下線部③の木下順庵が著した書物にはイ，そうでないものにはロをマークしなさい。

- a 『中朝事実』 b 『経済録』 c 『政談』

問6 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a この藩校の名称は日新館である。
- b この藩校の設立は水戸藩の藩校である弘道館の設立より早かった。
- c 小田野直武はこの藩校開校にあたり招かれた儒者である。

問7 下線部⑤に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 高取焼は佐賀藩内で行われる陶磁器のひとつである。
- b 京焼陶工の指導を受けて佐賀藩内でも磁器の生産が始まった。
- c 赤絵は佐賀藩内で開発された技法である。

問8 下線部⑥に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 佐賀藩は紡績工場を設けた。この紡績工場は日本最初の機械紡績工場である。
- b 佐賀藩は造船所を設けた。明治期，三菱は，払下げを受けたこの造船所を中心に造船事業を発展させた。
- c 佐賀藩は大砲製造所を設けた。ここでは反射炉を用いて大砲を鑄造していた。

III 次のA～Fは、ある人物(X)の伝記から抜粋した文章である(一部改変)。これを読んで、設問に答えなさい。問1・問2・問9は記述解答用紙に答えなさい。問3～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(40点)

A Xが日本最難関の入試を突破して第一高等学校に入学するのは大正3年(1914年)、すなわち [1] が始まった年である。(中略)

日本は対外関係では [2] によってロシアの南下政策を抑止し、他方で日露協約によってロシアとの協調と利権分割を図ってきた。一方日本国内では、大正元年12月に誕生した第三次桂太郎内閣が、当時全国的な広がりをみせていた国民運動^①に倒れ、続いて [3] が政友会を基盤に内閣を組織する。しかし、政権に抗議する大衆デモ^②のなか、大正3年度予算案不成立の責任をとってついに [3] ^③内閣は総辞職する。(中略)

大隈重信内閣は、翌大正4年、すなわちXが一高2年のときには、対中国二十一カ条要求^④によって中国に露骨な干渉を試みる。

B Xの国家統制論は、はからずも、いや皮肉にも共産主義国ソ連によって先取りされていたかのようなのである。いずれにしても、強力な国家体制によって初めて可能なこのソ連五ヵ年計画が、Xや吉野ら統制論者たちに、脅威と共感の入り混じった複雑な感概を与えたこと、そしてそれが彼らの産業合理化運動^⑤の推進にそれなりの刺激を与えたことは否定できない。加えて、当時の国際経済が全体的に保護主義を強めていたこと^⑥も、日本の統制経済論者を勢いづかせたといえる。

C 二人([あ] とX)の関係がこうまで悪化するには、それなりの理由があったといえよう。私鉄、興行界で成功し、根っからの自由主義経済人である [あ] と、片や名うての国家統制論者Xとでは、そもそも思想的に合うはずがなかった。それが典型的にあらわれるのは、昭和15年12月に閣議決定した「経済 [4] 確立要綱」をめぐるものである。第一次近衛内閣のときに起こった「近衛新党」運動は、第二次内閣誕生とともに [4] 運動として再興し、諸政党の解党による大政翼賛会の結成(昭和15年10月)や、労働者を「国策の本義」に束ねていくため

の大日本産業報国会の成立などを導く。こうした文脈のなかで、企画院は高度国防国家体制に向けて「経済 4 確立要綱」を立案することになる。

資本と経営の分離、私利追求の否定、企業への政府監督権の強化等々、「国防国家」施策を盛り込んだ同「要綱」案の作成に、商工省側からXが関与したことはいうまでもない。しかしこの作業中、大臣の あ がたまたま蘭印（インドネシア）に出張していたため、Xは独断で事を進める。帰国してその「要綱」案のことを報告された あ は、「自分を無視した」Xにたいして激怒したばかりでなく、「要綱」案そのものを「アカの思想」として公然と批判することになるのである。

D Xは昭和23年3月の日記でこういう。すなわち、アメリカは日本を民主主義陣営の単なる「衛星国」にとどめるのか、それとも「日本を駆って共産主義陣営に投ぜしめんとする」のか、その占領政策を「明確な目標の下に建直す必要に直面している」（昭和23年3月16日）というわけである。Xは、アメリカが対日占領政策を一日も早く断ち切って、「反共」のために闘う対等の「盟友」として日本を遇すべきことを主張する。だからこそ、Xにとって米ソ冷戦というこの新事態は、「四・二九起訴」以後二年を経た 5 そのものの意義を「大半喪失せしめてゐる」のである（昭和23年4月17日）。

E 第1回日米交渉は10月4日、交渉担当者である藤山、マッカーサー大使のほかにXも加わって開かれた。以後35年1月までの実に15ヵ月にも及ぶ交渉の幕は切って落とされた。この第1回交渉で最も注目すべきことは、新条約草案（以後「一〇・四草案」ともいう）が、そもそも安保改定を提起した日本側からではなく、アメリカ側から提出されたということである。

日本側が本来安保改定を求める最重要目的の一つは、在日米軍の域外作戦行動と核持ち込みに関するアメリカ側の自由裁量に何らかの歯止めをかけることにあった。

（中略）機先を制して一〇・四草案を日本側に提起したアメリカ側は、6 については、アメリカ軍部を刺激しない形、すなわち条約本体からこれを切り離して付属文書にまとめるという案をこの第1回交渉のテーブルに出すことができたのである。

F 「反共」のための強力な指導態勢構築に向けて を実現し、これを基盤に安保改定を完成しつつあるXにとって、いま、最も望むべきは、これらみずからの政治的事業が拠って立つ「米ソ冷戦」そのものの存在証明であった。新条約調印にたいする中ソの攻撃を懸念するXが、アメリカから改めてその後ろ楯を得たことの意味は重にして大である。しかもアイゼンハワーから「六月一九日訪日」について約束をとりつけたことは、安保改定を取り巻く内外の情勢からしてXの立場を大いに強化するものであった。^⑦

問1 文中Xとされた人物は誰か。氏名を漢字で答えなさい。

問2 空欄 ~ に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問3 空欄 は、沿線の宅地開発、ターミナル・デパートなど、鉄道経営を刷新した人物で、現在の宝塚歌劇団の創始者としても有名である。この人物を次の中から選んでマークしなさい。

- a 星亨 b 小林一三 c 石橋湛山 d 五代友厚

問4 下線部①に関し、中国權益をめぐる国際情勢について述べる次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 石井＝ランシング協定では、満鉄の日米共同経営に前向きに取り組む旨合意がなされた。
- b (第4次)日露協約は、日本のシベリア出兵により、ロシア側から破棄された。
- c 義和団事件の鎮圧にアメリカが兵力を十分に出せなかったのは、領有していたフィリピンの独立運動が一因である。
- d ヴェルサイユ条約により日本に認められた山東省のドイツ權益は、ドイツが北京議定書により清から得ていたものである。

問5 下線部②と③に関する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 下線部②はいわゆる普選運動であり、③は第一次護憲運動と呼ばれる。
- b 下線部②はいわゆる普選運動であり、③の直前にはジーマンス事件が起きた。
- c 下線部②は第一次護憲運動、③は第二次護憲運動と呼ばれる。

問6 下線部④の相手方として適切なものを次の中から1つ選んでマークしなさい。

- a 段祺瑞 b 袁世凱 c 汪兆銘 d 蔣介石

問7 下線部⑤の例として適切なものを次の中から1つ選んでマークしなさい。

- a 重要産業統制法 b 産業組合法 c 金融緊急措置令
- d 工場法

問8 下線部⑥の例として適切なものにはイ、そうでないものにはロをマークしなさい。

- a 金輸出再禁止 b 高関税政策 c イギリス連邦の形成

問9 下線部⑦に関し、革新勢力を中心とした改定反対運動が急速に激化したのはなぜか、また、改定条約発効後に登場した新内閣はどのようなスローガンのもとにどのような政策を推進したか、100字以内（句読点を含む）で述べなさい。